

第 6 回懇談会で出た意見の概要

議題 1 モデルリスクコミュニケーションの結果について

ファシリテーター（司会進行）インタープリター（アドバイザー）の役割

司会者、及び知識ある専門の方のアドバイスがあったことが、今までの会社説明会とは全く違う印象にした。

アドバイザーの方の説明で、納得いただけたと思う。

- ・いかにわかりやすく説明できるかが重要
- ・様々な分野の人（法律に詳しい人、化学物質のリスクに詳しい人など）が必要

主催した工場について

リスクコミュニケーションに理解を示して、工場が一体となって受け入れ態勢を整えていた。

工場の方がきちんと心を開いていた。

- ・会社をさらけ出さないと、地域の方の理解を得られない。

もっと、工場で直接働いている方の生の声を聞けるとよい。

施設を開放するなどの日頃の付き合い、敷居の高くない住民の方とフランクに話せる環境を作っていく必要もあると思う。

質問に対する答え方が、大変正直に事実を述べており、実際に台本ができていない場合も少なくないと思うので、勇気のコミュニケーションが出来ていたと思う。

地域住民について

工場が行ってきたことを良く見ていて、それに対して感覚的な対応ではなく、きちんと把握しようとしていたので、今後のよい関係を築く可能性を感じた。

地域の方にとっても疑問が解けたという点でよかったのではないかと思う。

もう少し住民の方の意見を聞きたかったが、時間の関係もあるので、このような会を続けていくと良いと思う。

会の進行について

それぞれが準備すべきことをできる限り準備し、後は現場で起こったことを大切にしながら進行した。

一番手間がかかるが、一番効果が高いであろうやり方がモデルリスクコミュニケーションの形式であったのではないかと思う。

モデルリスクコミュニケーションでの進行の方法が唯一無二ではないので、様々なやり方の中から、名古屋に向けたものはどれかを検討していけたらよい。

地域の方の誤解を、しっかり納得するまで説明していたと思う。

リスクコミュニケーションの必要性

工場をオープンにしているにもかかわらず、敷居が高かったり、急に来てすぐに入れるわけでもないので、今後もこういった場を設けることが必要だという印象を受けた。

工場から多くの従業員の方が出ていたが、あれだけの好印象を得るためなら、人員をかけてでも、継続していくべきだと思う。

問題がないときに事業者が自主的に行うリスクコミュニケーションは重要で、それにより、何か問題が起きた時にも、住民の方へきちんと説明ができると思う。

企業と住民が良い関係を築くことで、環境への配慮が進み、日本の産業の発展につなげていくためにも、リスクコミュニケーションはやっていかなければならないと思う。

「化学用語や数値を聞いたところで何になる」という地域ミニコミ誌の記事について

マスコミがこのように書いたということが、シビアな問題をはらんでいる。

・化学用語や数値も聞いて、その意味についても一定の理解ができるような市民を増やしていく必要がある。

・「CO₂削減」などの言葉も最初は難しい言葉だったが、言い続けるうちに市民レベルの言葉になってきたと思うので、化学物質の用語も地道に言い続ける必要がある。

議題2 今後のリスクコミュニケーションの進め方について

推進組織

フィードバックして、より改良をしていくための組織は必要である。

人材を確保するための組織を準備しておいて、やりたい会社側には教育をするなどしておくことでリスクコミュニケーションがやりやすくなる。

人材の育成・確保

人材をどのように確保していくかが重要

- ・リスクコミュニケーションのための人材斡旋業も必要
- ・様々な事業所が継続的に行うにはかなりの数の人材が必要
- ・国の補助制度を利用して、産学官と市民が連動した人材育成を行うことが必要
- ・ファシリテーターを養成する学校もあるので、連携を考えるのも必要
- ・アドバイザーは、大学の先生を柱に据えることも可能
- ・環境省の「化学物質アドバイザー」の制度を活用することも視野に入れるとよい。
- ・ファシリテーターには専門性がない人のほうがいいとも言われているが、化学的な知識が全くないのも不安である。

リスクコミュニケーションの前段階

最初に相談に乗ることができる人、何から行っていくかなど、二人三脚で考えていける組織や人が必要だと思う。

あらかじめ、市民や事業所の方が、リスクコミュニケーションのようなことを体験できる場があると、話もしやすく意見も活発に出るのではないか。

企業の方と住民の方のつながりは既に多く設けられているので、ここから発展してお互いに問題を出し合えば、リスクコミュニケーションにつながると思う。

環境大学との協働

環境大学と協働で行っていくのは効果的である。

- ・環境大学の会場を工場にしてもよい。
- ・環境大学と連携して、講演会等を頻繁に開いていけば、だんだん市民の方々の中にも知識が積み重なっていくと思う。

その他

リスクコミュニケーションという体験だけで終わるのではなく、まとめをしてこそ知識が根付いていくと思う。

リスクコミュニケーションをやってくださいと住民が言えるための住民教育など、住民に働きかけていくという視点も必要だと思う。

事業者にとっては、手間など会を持つことのリスクもあるので、事業者にどんなメリットがあればリスクコミュニケーションをやらうとなるのかということを出していく必要がある。

行政がコミュニケーションに慣れていないという現状はあるが、繰り返すことによって徐々に慣れて、市民がどう考えているか知ることにつながると思う。